



CODE
for JAPAN

公民連携を実現する 3つのキーワード

～Code for Japanの活動を振り返って～

一般社団法人コード・フォー・ジャパン
事務局長
陣内 一樹

自己紹介



陣内 一樹

Kazuki Jinnouchi

2007年 NECに入社

2013年 復興庁に出向
福島県浪江町役場に勤務

2015年 NECに復帰

2017年 Code for Japan 事務局長

本日、伝えたいこと

1. 行政の**デジタル化**は不可避
2. デジタル化は**全ての業務**に影響
3. デジタル化時代の公共サービスは
公民連携が重要

公民連携を実現する3つのキーワード

1. **Give & Give & Take**
2. 完璧を求め**ない**
3. **個人**の想いと行動

本日の目次

1. Code for Japanの活動紹介
2. デジタル化時代の公共サービス
3. 事例から考える公民連携
 - a. フェローシップ
 - b. 地域フィールドラボ

Code for Japan 活動紹介

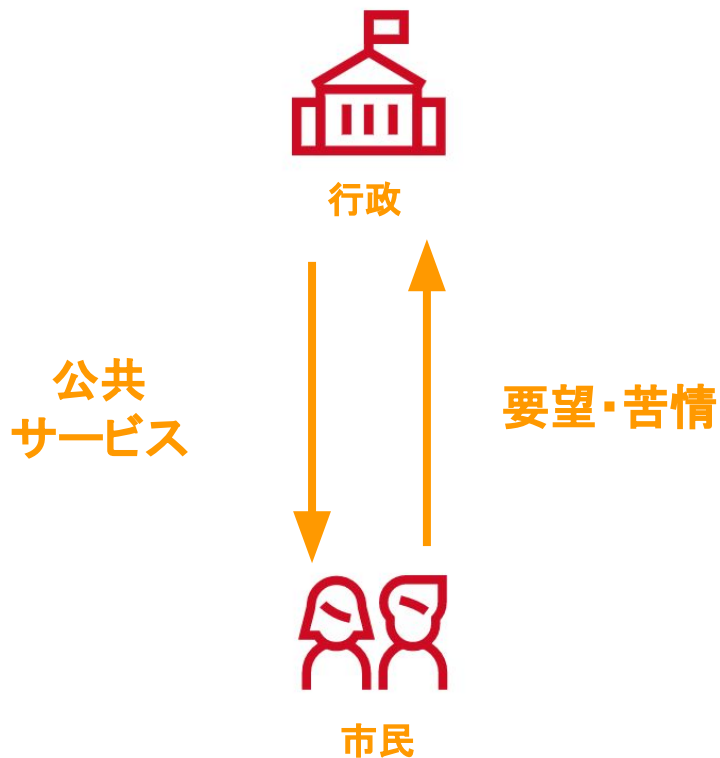


ともに考え、ともにつくる。



CODE
for JAPAN

依存から



共創へ



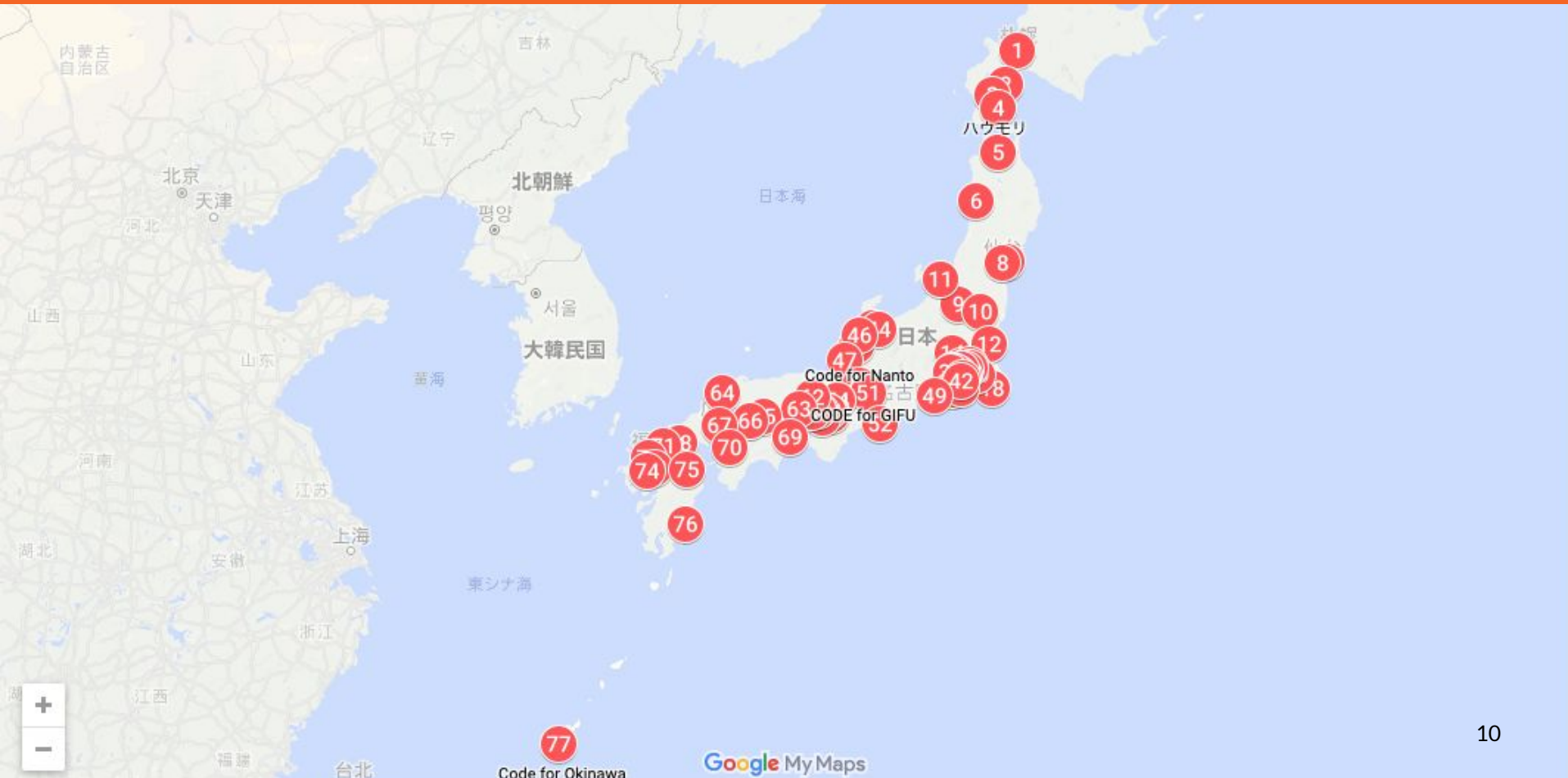
世界26カ国で「Code for xx」が活動



OUR PARTNERS

Code for All is a collaborative network, made up of organisations from all over the world.

全国、約80地域で「Code for xx」が活動



各地で自らの地域を良くするための活動



各地の団体が多様な活動を展開中！

ともに考える場づくり



行政との勉強会
アイデアソン
オープンデータカフェ

ともにつくる場づくり



シビックハックナイト
ハッカソン

まちのデータ収集



マッピングパーティ
Wikipedia Town
LocalWiki

まちのデータ活用



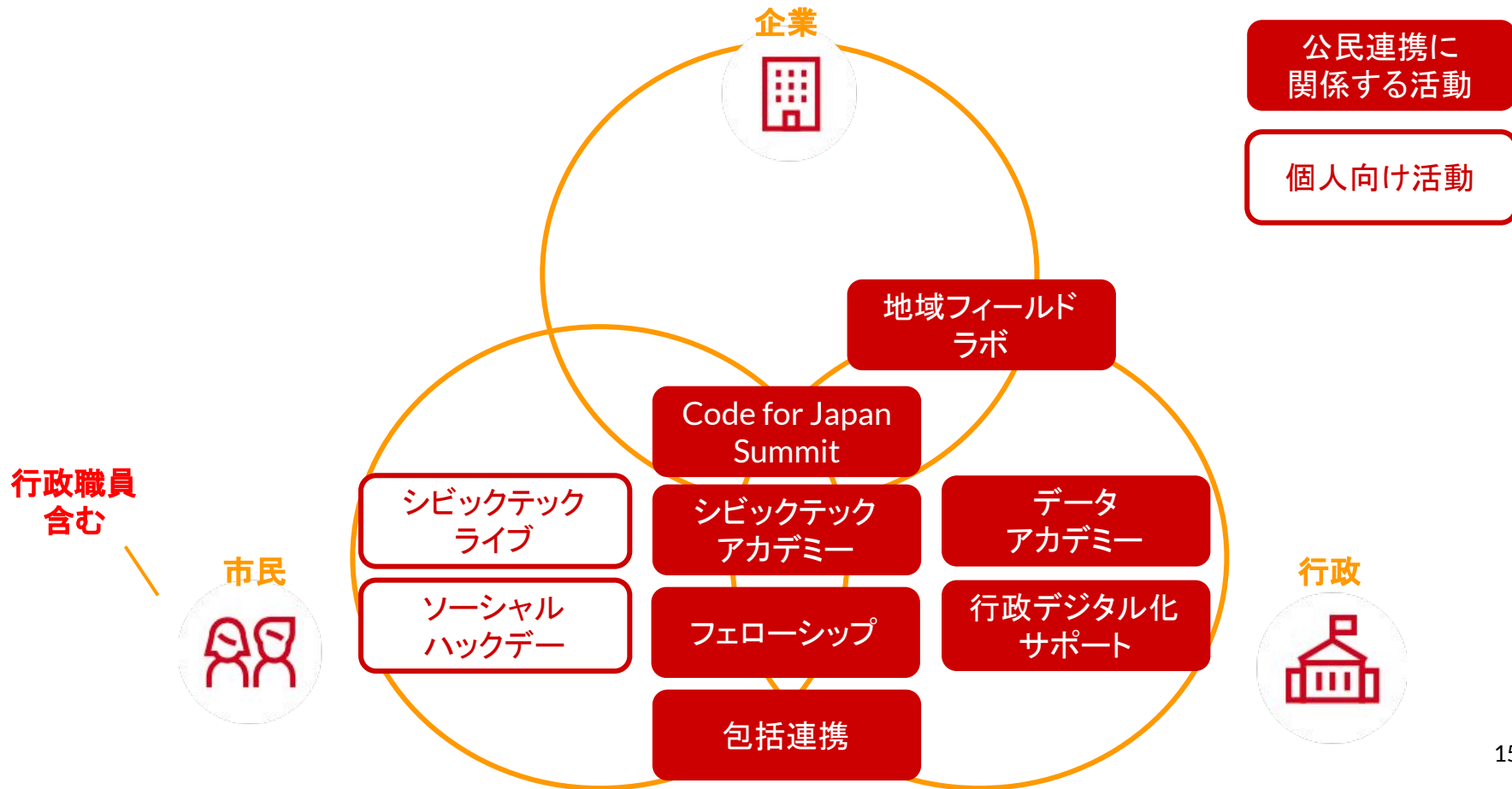
RESASワークショップ
データアカデミー

市民・企業・行政とともに課題解決



1. 行政機関と企業の連携
2. 行政機関での民間人材の活用
3. 行政機関に民間の技術や知見を導入
4. 市民協働の促進

Code for Japanの主な活動と公民連携



デジタル化時代の 公共サービス

政府のデジタル戦略

世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画（2019/6閣議決定）

課題の顕在化

人口減少
労働職の不足

社会の変化

技術の民主化
働き方の多様化
データの増加

デジタル技術の恩恵を誰もが享受できる
インクルーシブな「デジタル社会」の実現

政府のデジタル戦略

世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画（2019/6 閣議決定）

- デジタル化自体はあくまで手段であり、国民の利便性の飛躍的な向上と行政・民間の効率化につなげる。
- データを新たな資源として活用し、全ての国民が安全・安心に、デジタル化の恩恵を享受。
- そのため、Society 5.0時代にふさわしいデジタル化の条件を下記のとおりに定める。

（１）国民の利便性を向上させる、デジタル化

- スマホ等により、国民は役所に出向かず、行政サービスを手のひらで完結
- まずは、子育て、引越してから介護、死亡・相続等までの代表的なライフイベントに係る手続等のデジタル化



（２）効率化の追求を目指した、デジタル化

- 行政運営の効率化、労働時間の短縮、事業活動の合理化に資するBPR・システム改革
- 国・地方電子化が、個人・企業への相乗効果で効率化が進む社会

（３）データの資源化と最大活用につながる、デジタル化

- 機械判読性 (machine-readable) ・発見可能性 (findable) がデータのAI分析の要件
- クリアランス（認証）を確保し、企業間のデータ共有が進み、生産性向上に
- 民間主体のデータ流通を前提に、国はその環境整備とオープンデータ化を推進



例えば、

- 航空会社では、運賃のダイナミックプライシングや人員の最適配置に活用
- ダイミックスアップ活用による自動運転やMaaS等の新産業の創出が可能に

（４）安全・安心の追求を前提とした、デジタル化

- スマホからIoTセンサー普及へ。ネット接続機器は幾何級数的に増加
- 生産性向上とチャレンジを支えるセキュリティの確保は、安全・安心なデジタル社会の礎となる



（５）人にやさしい、デジタル化

- デジタル化により、取り残される人があってはならない。デジタル化は、あくまでも安全・安心・豊かさという大目標達成のための手段
- 活力のある社会に向け、デジタル・インクルーシブな環境を作り出す

自治体のデジタル戦略

スマート自治体研究会報告書(2019/5)

無駄な システム投資

住民企業等にとっての不便さ
自治体やベンダの負担

社会制度の 最適化

今のシステムや業務プロセスを
前提にせず、
今の業務を抜本的に見直す

原則① 行政手続きを紙から電子へ

原則② 行政アプリを自前調達式からサービス利用式へ

原則③ 自治体もベンダも守りの分野から攻めの分野へ

デジタル化

紙



デジタル

業務の再構築



テクノロジー
データ

現場力



課題解決！

自治体のデジタル戦略

- デジタル化を前提として全業務を抜本的に見直す
- ユーザー（市民）目線で公共サービスのあるべき姿（全体像）を考える
- 国や他自治体、民間企業のサービスを徹底的に活用する

Code for Japanの強みと役割

公民連携に必要な要素



Code for Japanの強みと役割



事例から考える 公民連携

フェローシップ プログラム

民間人材が行政機関に入り、
変化を起こすプログラム

個人



週3~5日
2~3年程度
職員として勤務



自治体



自治体

- 民間の知見の導入
- 民間企業に対する理解
- 外部人材という特殊性



個人

- 個人としての挑戦
- 公共領域での新たなキャリア
- ここでしかできない経験

Code for Americaは行政機関にフェローを派遣



Code for Japanも2014年から開始

任期付採用や業務委託によって3自治体で民間人材を活用

福島県浪江町



情報発信
プロジェクトマネージャー
エンジニア

兵庫県神戸市



業務改革
サービスデザイナー

広島県福山市



業務改革
コンサルタント

浪江町でのアプリ開発

行政・企業・市民の間に入り、開発と普及を加速

アプリ設計



- ユーザーヒアリング
- 町民参加のワークショップ

アプリ開発



- 事業者のマネジメント
- ユーザーテストと改善
- 町民投稿と自動化

普及啓発



- 講習会
- 動画
- マニュアル

神戸市での業務改革

小さな成功の積み重ねと外部との繋がりが大きな流れをつくる

業務プロセス改革



- 原課とともに推進
- 市民目線で検討
- アナログ & デジタル

クラウド活用



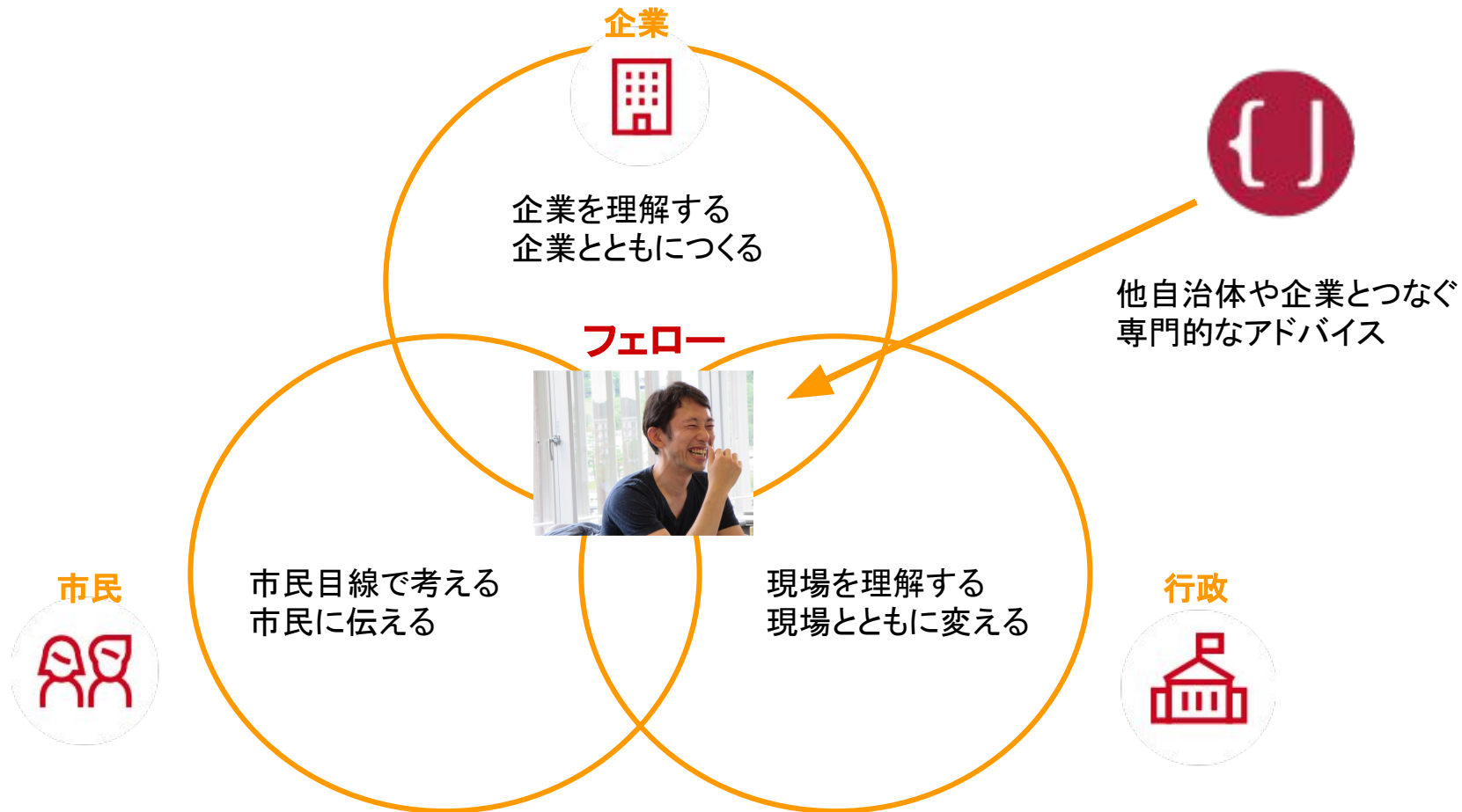
- 少数の業務で開始
- 課題と成果の洗い出し
- 包括的な取り組み

文化の変革



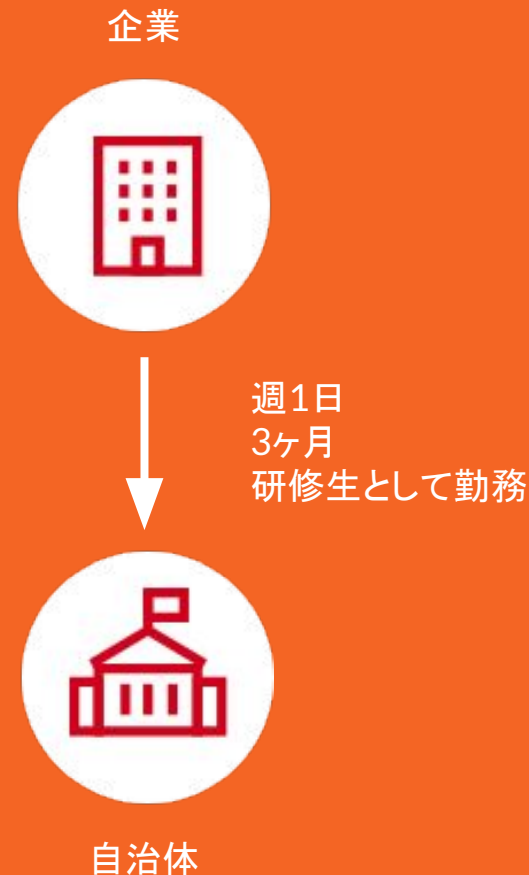
- 市長や他組織との対話
- 庁内プロモーション
- 庁内イベント、勉強会

Code for Japanの主な活動と公民連携



地域フィールドラボ

企業人材が自治体の中で
課題解決を行いながら
成長するプログラム





自治体

- ビジネスの知見を吸収
- 行政の文化の変革
- 現場での仮説検証



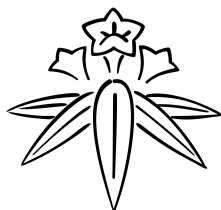
企業

- 越境人材の育成
- 地域課題の探索
- サービスの創出や検証

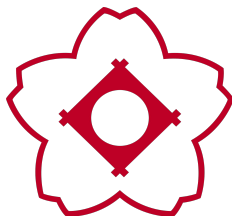
20社50名、20自治体がプログラムに参加



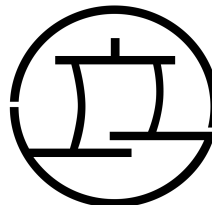
福井県鯖江市



神奈川県鎌倉市



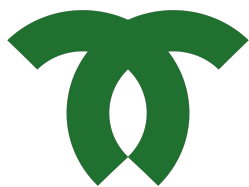
愛知県春日井市



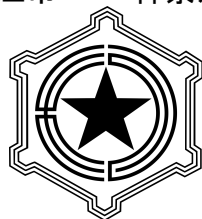
大阪府枚方市



福島県会津若松市



兵庫県神戸市



北海道札幌市



東京都世田谷区



愛知県犬山市



大阪府豊中市



兵庫県芦屋市



NECソリューションイノベータ

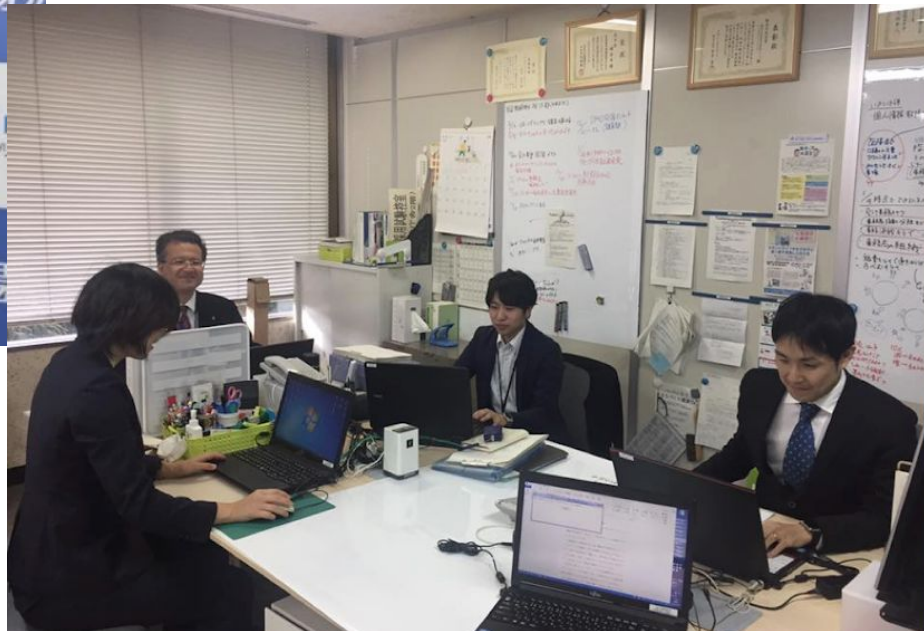


大鵬薬品



株式会社Momo

首長も現場にも歓迎されるプログラム



丁寧なマッチングとフォローアップ

企業と
自治体の
マッチング

関係者との
関係性構築

ヒアリングや
WSによる課
題探索

プロト
タイピング

関係者から
のフィード
バック



募集説明会



市民へのヒアリング



市民からのフィードバック

自治体	フィールドワーク・テーマ
福井県鯖江市	特定健康診査の受診率向上で健康なまちづくり
神奈川県鎌倉市	民間企業のノウハウを導入した市役所働き方改革の推進
愛知県春日井市	ICTを活用した業務改善とデータの利活用
大阪府枚方市	RPAの推進とオープンデータの拡充
福島県会津若松市	効果的・効率的な雪対策の提案
兵庫県神戸市	災害時に乱立する情報を活用するしくみの構築
北海道札幌市	効率的・効果的なオープンデータ推進とGIS運用
東京都世田谷区	RPA活用等、業務プロセス改善による働き方改革
愛知県犬山市	ICTを活用した業務改善による職員の負担軽減
神奈川県鎌倉市	産前産後ケアプログラムの更なる充実に向けた調査・研究と事業提案
大阪府豊中市	地域包括ケアシステムのた情報の洗い出しとプロトタイプの実成
兵庫県芦屋市	デザイン, データ, デジタル技術による行政経営改革

事例紹介①

参加企業

NECソリューションイノベータ株式会社

フェロー

深谷 洋さん(システムエンジニア)

フィールドワーク

愛知県春日井市情報システム課ICT推進室

「ICTを活用した業務改善とデータの利活用の検討」

活動期間

2018年7月～2018年9月



自治体と企業の狙い

春日井市

- データに基づいた政策立案の推進
- 民間視点での業務プロセスの見直し
- 職員のITツールやデータ活用の啓蒙

NECソリューションイノベータ

- 新規ビジネスを創出できる人材の育成
- 顧客との新たな関係の構築(受託からの脱却)
- 自治体の業務プロセスの理解

活動内容①

最初の1ヶ月で取り組む課題を特定していく

STEP1: 活動初日に担当職員とワークショップを実施

STEP2: 働き方改革に向けて、現場の職員からヒアリング



実施日	所属名	主なヒアリング内容
7/10	人事課	多忙な所属(時間外業務が多い所属)の状況
7/13	総務課	電子決裁、ペーパーレス、テレワーク
7/19	子ども政策課	各種届出の対応、マイナンバー連携
7/19	保育課	入園申し込みの業務効率化、給食関係
7/24	会計課	電子決裁、決算書の見出しチェック
7/24	市民税課	申告書のチェック、固定資産税の調査
7/24	地域福祉課	独居高齢者、災害対策
7/25	障がい福祉課	福祉応援券の対応事務の効率化

地元TV局や新聞社の取材も入った

各課の職員から直接業務についてヒアリングを行った

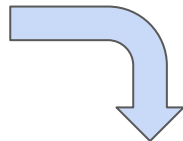
活動内容②

再度、各課からヒアリングをおこない、独自の業務分析シートで改善を提案

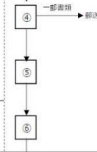


各課の業務プロセスをヒアリング

ICT二鑑定 業務分析 Before シート				記入者	深谷	記入日	2018年 8月 9日	
業務名		福祉ITサービスの委託・処理		業務担当者		業務担当所属	障が/福祉課	
№	区分	手順概要	環境	インプット	アウトプット	期待時間(3回)	担当	フロー項目
①	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 画面に問い合わせ 手続 画面に問い合わせの依頼(請求書・ FAX)の口取りや印刷とも比較する 終了 パソコン読み取り開始	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	2社 350(秒) 1社 171(秒) 6社 4980(秒) 平均 1834(秒)	障が	①
②	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 パソコン読み取り開始 手続 福祉システムに業務パソコンを 取り込みの人数が多いため 終了 読み取り完了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	2社 170(秒) 1社 100(秒) 8社 552(秒) 平均 228(秒)	障が	②
③	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 請求書入力処理の起動 手続 システムの画面の一覧をみながら 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	17社 10.5分 1社 2分 8社 7.3分	障が	③

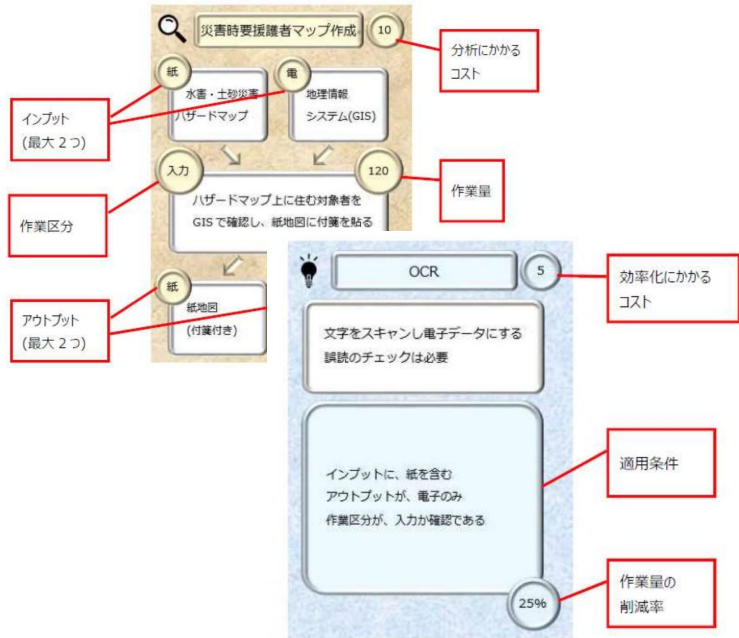


ICT二鑑定 業務分析 After シート				記入者	深谷	記入日	2018年 8月 9日		
業務名		福祉ITサービスの委託・処理		業務担当者		業務担当所属	障が/福祉課		
№	区分	手順概要	環境	インプット	期待時間	担当	フロー項目		
①	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 画面に問い合わせ 手続 画面に問い合わせの依頼(請求書・ FAX)の口取りや印刷とも比較する 終了 パソコン読み取り開始	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	1834(秒)	障が	①	
②	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 請求書入力処理の起動 手続 システムの画面の一覧をみながら 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	298(秒)	障が	②	
③	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 請求書入力処理の起動 手続 システムの画面の一覧をみながら 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	6.6(分)	障が	③	
④	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 支払処理の起動 手続 RPA化：銀行振替の出力 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	2.5(分)	障が	④	
⑤	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 支払処理の起動 手続 RPA化：銀行振替の出力 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	1.3(分)	障が	⑤	
⑥	入力・印刷・検索 整理・加工・出力・会話 思考・移動・その他 ↓	開始 請求書入力処理の起動 手続 RPA化：請求書入力処理 終了 画面の一覧をみながら 終了 処理終了	PC 上一住居系・内部系・その他機系 NW 機・電子媒体 機系 紙・FAX	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	機系 電子メール 機系 紙・FAX 機系 音声	13.8(分)	障が	⑥	
年間実施回数(計算式も記入) 何人/毎月/毎日				①～⑥の平均値の合計(71.3分)×10(回)/月×2 ①～⑥の平均値の合計(35分)×2(回)/週×4		年間実施回数	537回	年間削減時間	94時間
Before→Afterへの移行コスト RPAソフトウェア：1時間 システム作成：4時間 制作確認：1時間				年間実施回数 ①～⑥の平均値の合計(51分) ①～⑥の平均値の合計(31分)		年間削減時間	537時間	年間削減時間	40時間



活動内容③

職員の働き方改革のマインドアップのために 独自の「業務効率化カード」を作り、ワークショップを開催



分析カードが足りないよ～！
効率化カードは沢山あるのに！

あっ！この状況って業務でも・・・
(気づき)



大規模システム導入はコスト高・・・
RPA導入がちょうどいいかな

あっ！この状況って業務でも・・・
(気づき)

「分析カード」と「効率化カード」を使って競う

事例紹介②

参加企業
株式会社ウェルモ

フェロー
池田 千恵さん(広報)

フィールドワーク
大阪府豊中市健康福祉部地域福祉課
「地域包括ケアシステムに資する情報プラットフォーム化に
向けた情報の洗い出しとプロトタイプ作成」

活動期間
2018年11月～2019年1月



自治体と企業の狙い

豊中市

- 地域包括ケアに関する官民のデータの可視化
- 行政や地域の課題と価値を共有する仕組みをつくる
- 豊中市を「地域共生社会」先進地としてPRし、庁内や関係者の機運を盛り上げる

ウェルモ

- 自治体の業務プロセスやデータの理解
- 行政や地域のステークホルダーとの共創

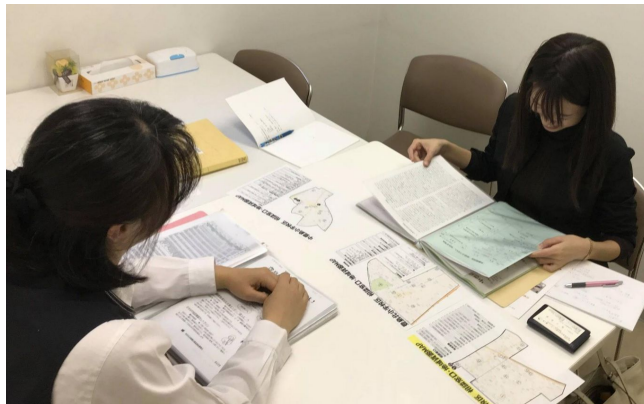
活動内容①

最初の1ヶ月で取り組む課題を特定していく

STEP1: 庁内各課や社協、民生委員等からヒアリング

STEP2: 市役所内介護関係者と情報交換

STEP3: 地域包括ケアシステム実務者会議



活動内容②

地域資源を地域カルテとしてデータ化するため、
ワークショップを開催

STEP1 : QGISやオープンデータに関するWS

STEP2 : 地域包括ケアシステムのデータ利活用のWS

⇒ 成果を踏まえて、中立的な立場で国等への提言



事例紹介③

参加企業

LINE株式会社

フェロー

福島 直央さん(コンサルタント)

フィールドワーク

兵庫県神戸市危機管理室

「災害時に乱立する情報を活用するしくみの構築」

活動期間

2018年11月～2019年1月



自治体と企業の狙い

神戸市

- 防災分野での新しい取り組み
- 民間企業との実証実験
(最初から実証実験が前提ではない)

LINE

- 自治体との連携加速
- 防災分野での新しい取り組み

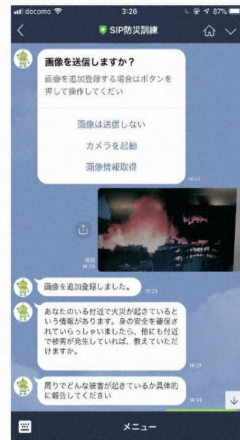
活動内容③

現場の課題とSNSの活用方法をすり合わせ、
実証実験を実施

STEP1: 危機管理室とフェローが活用方法を検討

STEP2: LINEが新たに機能をチャットボットに実装

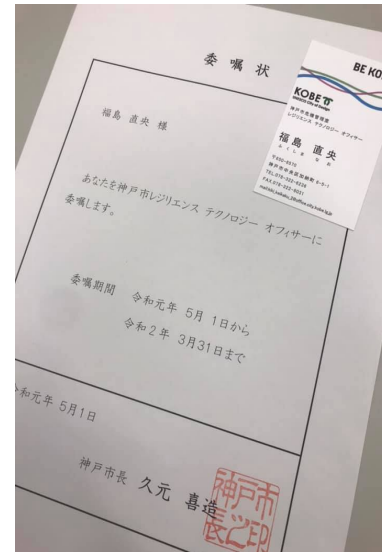
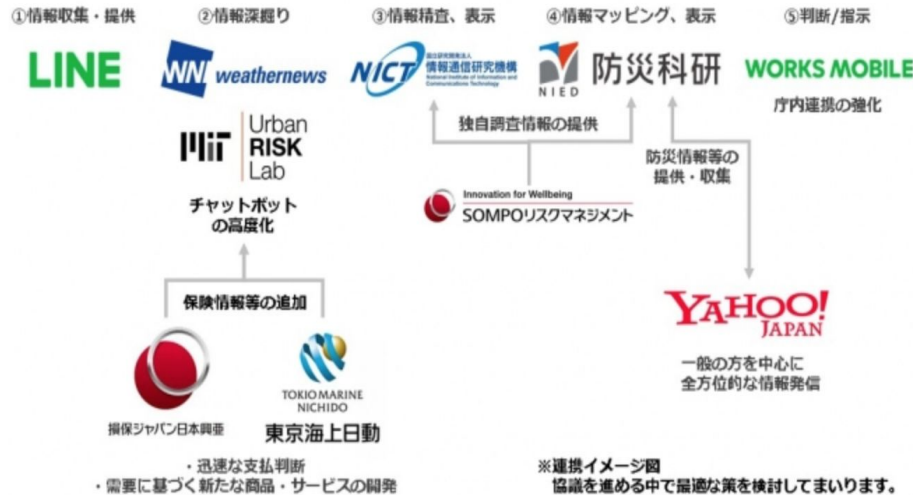
⇒12月に職員約150人が参加した実証実験を実施



活動内容③

他の企業や自治体との連携を拡大し、
取り組みを加速

STEP1: ヤフーやウェザーニューズとAI防災協議会を設立
STEP2: 2019年度も神戸市の非常勤職として活動



自治体	2019年度フィールドワーク・テーマ
宮崎県新富町	次世代農業ビジネスの検証及び実証実験
神奈川県鎌倉市	「伝わる」広報とするための取組と広報の効果測定
愛知県春日井市	会計業務の効率化
愛知県春日井市	公立保育園の事務効率化
福井県鯖江市	けもの情報の見える化で鳥獣害対策をより身近に
福島県会津若松市	公園施設の情報分析と官民連携型施設管理の分析・提案
兵庫県神戸市	ICTを活用した業務改善 ～FAXからの脱却～
静岡県裾野市	市民課窓口業務の効率化による市民サービス向上
静岡県裾野市	庁内文書等のペーパーレス化に向けた現状整理と実証
静岡県掛川市	金次郎さんのメッセージを生かすまちづくりへの支援
静岡県掛川市	効率の良い窓口業務に向けたチャットボットの活用
静岡県掛川市	職員の時間外縮減に向けた「働き方改革」推進のための支援

2019年度下期スケジュール(予定)

- 8月上旬 自治体からの募集テーマ提出締め切り
- 8月中旬 自治体の募集テーマ発表、募集開始
- 9月下旬 企業からの応募締め切り(派遣先決定)
- 10月 派遣手続き
- 10月下旬 派遣前研修
- 11月上旬 派遣開始
- 11月下旬 派遣後研修(中間報告会)
- 1月末 派遣終了



ともに考え、ともにつくる

